

実習施設名：生活介護事業所〇〇	施設種別：生活介護	作成メンバー：	作成日：202 年 __月 __日
-----------------	-----------	---------	-------------------

ソーシャルワーク実習 教育に含むべき事項 (国通知)	達成目標 (評価ガイドライン) ※各達成目標の具体例 は行動目標を参照	学生に求める事前学習	当該実習施設における実習の実施方法及び展開				指導上の留意点 活用する資料・ 参照物
			具体的実習内容				
			SW 実践の場の理解に関する内容	SWr の理解に関する内容	SW 実践の理解に関する内容	SW 実践の理解に関する内容 (発展的)	
① 利用者やその関係者(家族・ 親族、友人等)、施設・事業 者・機関・団体、住民や ボランティア等との基本的な コミュニケーションや円滑 な人間関係の形成	(1)クライアント等と人間 関係を形成するための基本 的なコミュニケーションを とることができる	・施設 HP の閲覧 ・障がい特性 (知的障害、 発達障害) について調べ る	①施設の成り立ちやどのような人たちが 対象としている施設なのか、説明を受け る ②施設が提供するサービスについて説明 を受ける ③利用者との日常会話をし、話を聞く	①職員が利用者とは話している様子を観 察する ②職員が利用者とはジェスチャー等の非言 語コミュニケーションを用いて関わっ ている様子を観察する	①利用者や保護者、施設職員、関係機関、 ボランティア、地域住民等に、自ら挨拶、 自己紹介をする ②利用者との会話を展開させるために、自 ら質問するなど、話題を提供する ③実習指導者に 1 日の出来事を報告する	①相手の話の意図をくみ取り、気持ちを想 像しながら会話する ②必要に応じて、時と場所を考慮して、職 員に相談をする	・実習生も施設職員の一 員であることを伝える ・実習の初期段階は、実 習生の特性に応じて 利用者との関わり場 面を実習指導者がサ ポートする ・施設パンフレット ・施設利用マニュアル
② 利用者やその関係者(家族・ 親族、友人等) との援助関 係の形成	(2)クライアント等との援助 関係を形成することができる	・傾聴の姿勢について調べ る ・バイスティックの 7 原則 を確認する	生活場面面接と構造化面接の特徴、施設 での日常的な職員と利用者との会話の目 的について説明を受ける	①職員による利用者との面接を観察する ②職員が利用者とは生活場面面接や構造化 面接を行う様子や利用者とは関わる様子 を観察して、マイクロカウンセリングの 技法に基づく言動を実習記録に記す	①かかわり技法 (視線、表情等) を用い、 意図を持って利用者とは話しをする ②基本的傾聴技法 (言い換え、閉ざされた 質問、開かれた質問等) を用い、意図を もって利用者とは話しをする ③利用者の非言語の表出を観察し、その意 味を考える	実習生自身の対象者とはのかかわりを、バイ スティックの 7 原則を基に自己評価し、 自己理解を深める	・実習生が職員の様子を 観察することで利用 者が不快な思いをし ないように配慮する ・技法について実習生の 理解度を確認しなが ら指導をする ・ケース記録
⑥ 当該実習先が地域社会の 中で果たす役割の理解及び 具体的な地域社会への 働きかけ	(12)地域社会における実習 施設・機関等の役割を説明 することができる (13)地域住民や団体、 施設、機関等に働きかける ことができる	対象地域の地域特性、人口 動態、社会資源について調べ る	①施設が町内会や市営住宅から請け負っ ている作業内容の説明を受ける ②地域ボランティアの受入れの概況 (人 数、頻度、役割等) について説明を受け る	①町内会等から請け負っている作業に同 行し、職員が地域住民とどのように関わ っているかを観察する ②地域ボランティアと利用者の関わり に介入する職員の様子を観察し、職員の役 割を考え、実習記録に記す	①委託作業などの打ち合わせ内容につ いて報告書を作成し、実習指導者に報告す る ②地域ボランティアと会話をして、今 後の課題を考察し、実習記録に記す	①地域ボランティア受け入れに関する課 題解決に向けた取り組みを企画する	・町内会等との打ち合 わせに実習生が同席 することの同意を得る ・地域ボランティアと の会話では必要に応 じて実習指導者も同 席する ・請負作業の単価表な ど ・ボランティア受入れ に関連する資料など